

第8次派遣(住田)

6月19日(日)~6月27日(月)

班長：末留 新吾さん (全労金)

吉元 竜一さん (沖 縄)

蒲原 俊之さん (セントラル)

《全労金第8次派遣 住田ベースキャンプへ出発!》 6月19日



本日は連合ボランティア派遣の入替日となります。

第8次派遣からは、全労金として3箇所目のベースキャンプ地となる住田ベースキャンプ(岩手県気仙郡)へと変更になり、活動地域も大船渡市・陸前高田市となる予定です。

第7次メンバーが東京に戻る前に出発した第8次派遣メンバーは、2回目の派遣となる末留書記次長、沖縄労組の吉元書記次長、セントラル労組の蒲原書記長です。

これまでとは異なる環境での活動となりますが、3名には全労金を代表して、ボランティア活動を繋げていただくことになります。

全労金に結集する全国の仲間のみなさんから3名にエールをお願いします。



《左から末留書記次長、沖縄労組吉元書記次長、セントラル労組蒲原書記長》

《第8次活動報告(初日)》 6月19日



《公民館の外観》



《体育館の外観》

全労金第8次(連合第11陣)の3名は、全労金四役、セントラル労組のみなさんに見送られ、10時25分に連合本部を出発し、約9時間後、岩手県気仙郡にある住田BC(ベースキャンプ)に到着しました。

首都高速から東北自動車道を北上し、栃木県・上河内SAと福島県・国見SA、岩手県・前沢SAで休憩し、花巻PAにてバスを乗り換え、岩手県・東和温泉で温泉に入りました。BCに到着してからは、注意事項の意思統一後、夕食をいただきました。

岩手県にある3つのBC(東和・宮古・住田)に向かう連合第11陣は総勢95名、そのうち、住田BCへ向かうのは、日教組16名、紙パ連合1名、全電線4名、全水道3名、セラミック連合4名、全労金3名、連合青森1名、全駐労1名、青森県電力総連4名の、合計37名(うち女性6名)です。

住田BCは、旧五葉小学校体育館(男性使用)と、同一敷地内にある公民館(女性使用)になります。BCの周りは山に囲まれており、この時間は肌寒い気温になっています。

明日から、ボランティア作業に入りますので、作業内容を紹介していきます。

このblogを通じて、全国の仲間の皆さんと同じ想いを共有していきます。



《体育館の内部》

《二日目の朝》 6月20日



おはようございます。

住田BCで初めての朝を迎えました。山間部にある住田BCは、空気が綺麗で、すがすがしい朝です。

作業予定地である大船渡の天気は晴れ、最高気温は29℃になるようです。

住田BC体育館での就寝は、敷布団、毛布、掛布団、枕があるので、私自身は気になりませんでした。昨日も天気が良かったためか、寝るときの温度は気になりませんでした。朝方の寒さで目が覚める位、寒暖の差は激しいです。体育館にはテレビがありませんので、具体的な温度は分かりませんが、今もひんやりしています。

今日から作業が始まりますが、大船渡までは、マイクロバス2台での移動になります。どんな作業になるかは、大船渡ボランティアセンターに行ってから決定しますが、被災者の方に寄り添いながら、ゼロ災で頑張ってきます。

では、行ってきます。

《1日のスケジュールを報告します》 6月20日

お疲れさまです。

今日は報告が長くなりそうですが、1日のスケジュール(流れ)と今日の作業報告に分けてお伝えしたいと思います。

まずは、1日のスケジュールについてです。

起床は6時30分、その後、7時20分に朝食を取り、8時20分に、マイクロバスで住田ベースキャンプを出発します。

9時に大船渡市ボランティアセンターへ到着し、本日の作業場所及び内容が各班毎に決定し、出発です。

午前中は、10時～12時を目処に作業し、途中、40分の作業後、10分の休憩を挟みます。

お昼休みを挟み、午後は13時～15時まで作業します。ハードな作業となりますので、途中、休憩を入れながらの作業となります。

15時に作業終了をし、ボランティアセンターへ戻り、班長は、1日の作業終了報告書を提出し、終了となります。

マイクロバスでの帰途、五葉温泉へ入浴の為に1時間程度立ち寄り、宿泊地である住田ベースキャンプには18時に到着となります。

暫しの休憩後、18時30分から班ミーティングで本日の反省などを行い、終了後、スタッフ(班長)会議を行います。

19時より夕食、その後は自由時間となります。就寝は22時30分、消灯は23時です。

消灯時間も早めですが、みなさんキッチリ守っています。(周りには何もありませんので…)

消灯後は、すぐにどこからかいびきが聞こえてきますので、繊細な方は耳栓が必要かもしれませんね。

以上が1日のスケジュール報告となります。

今日の作業報告は、後ほどお伝えします。(報告者：吉元)

《第八次支援報告(2日目作業)》 6月20日



先ほどお伝えしたとおり、本日の作業について報告します。

今日は晴天に恵まれ、気温は31℃、初めての作業となりました。

私たちは、連合青森の3名の方(うち女性1名)と6名で班を構成しています。

朝に全員がマイクロバスで大船渡市のボランティアセンターへ行き、そこで今日の作業が決まるのですが、バスを降りたら(海岸に近いからなのか)若干、ヘドロの臭いを感じました。

ちなみに、作業については、男性・女性の区別はなく、割り当てられた作業を分担して対応しています。

本日、私たちのチーム+他の班からの応援3名(日教組の方々)の合計9名は、個人宅の一階の壁(内壁)の取り壊し作業を行うことになりました。

行く途中に大船渡の海岸付近を通ったのですが、壊れた車や大量のがれきを目の当たりにし、本当の復旧にはまだまだ時間が必要だと痛感させられました。

今日向かったお宅は、海岸からはある程度離れている場所でしたが、一階部分の大半が津波の被害を受けてしまい、一階は全面改装されるようです。外壁には津波の爪跡が今も残されていました。

私たちは、防塵マスク・ゴーグル・ヘルメット・ゴム手袋のフル装備を装着し、汗でゴーグルを曇らせ、石灰まみれになりつつ、使い慣れない工具を手に作業を行いました。全ての内壁を取り壊すまでには至りませんでした。

それでも、チームで団結・協力して作業できましたし、住まわれてる方からは、作業の最後に感謝の言葉もいただき、そうした心遣いがとても嬉しかったです。派遣場所が個人宅でしたので、作業の写真はありませんが、写真は一枚目が全労金チーム、2枚目が同じ班の連合青森の方々、3枚目が大船渡の海岸付近(壊れた車が大量に積まれていました)、4枚目が今日一緒に作業したメンバーとなります。

作業後に温泉に浸かってスッキリしましたし、明日以降も天気がどうなるか分かりませんが、チーム全員で協力して、自分達にできることを(ゼロ災で)しっかりやりたいと思います！ (報告者：蒲原)

《3日目の朝》 6月21日



《左から吉元さんと蒲原さん》



《出発前の連合ボランティア団》

おはようございます。

今朝の住田BCの天候は曇り、活動予定地の大船渡市の天候は曇りで予想最高気温は29℃です。

住田BCでは、食事当番を班ごとに交代で行っており、今朝は全水道・セラミック連合・全労金・連合青森が当番でした。

食事(朝食・夕食)は、当初、炊き出しと聞いていましたが、業者に委託して、ご飯・味噌汁・おかずが運び込まれ、食事当番が配膳することになります。

また、食事終了後には全員が使用した食器を洗い、ふきんで拭いて元の場所に戻します。

大船渡ボランティアセンターへの出発は8時20分ですが、今朝の当番終了した時間が8時でしたので、起床からの時間を有効に使って出発準備をする必要があります。

今は、大船渡ボランティアセンターに向うバスの中です。3名とも、まだまだ元気です。テレビがなくても、連合ボランティア団の方々と交流していると、あっという間に就寝時間になりますので、日々、繋がりを広げながら、毎日の活動を展開していきます。

それでは、行ってきます！

《活動報告(3日目)》 6月21日



お疲れ様です。

今日は作業の報告と社会福祉協議会の紹介をしたいと思います。

まずは今日の作業ですが、曇り空で、時おり雨に降られながらの作業となりました。

作業内容は、昨日お伺いしたお宅に向かい、やり残した内壁の取り壊しと、押し入れの中板や床板の取り外し、壊した壁のがれきを土嚢袋に積める作業等を行いました。

土嚢袋はトータルで100袋以上にもなりました。

床板を外す作業は、作業終了時刻までに全ての床板を外すことはできませんでしたが、汗だくになりながらも、チームで協力して取り組みました。

今日の写真は、1枚目は作業に行く途中の道路(船が道路の上まで乗り上げた状態です)、2枚目は、作業で積み上げた土嚢袋です。

住田BC(ベースキャンプ)や毎日行っている五葉温泉は、付近で普通に鹿が現れるくらい、のどかな山間の場所にあります。

明日もこういった作業になるかは分かりませんが、今日もしっかり休んで、チームで団結して作業にあたりたいと思います。

後ほど社会福祉協議会について報告します。

《大船渡市ボランティアセンター(社会福祉協議会)の活動を紹介します!》6月21日



《大船渡市社協本部の様子》



《受付の皆さん》

連合救援ボランティア団は、毎朝、大船渡市ボランティアセンターに行ってその日の活動内容を確認します。作業場所や作業内容・希望人数などの依頼内容によって、班ごと(今回は全労金班と連合青森からの参加者、合計6名で一班です)、あるいは、複数の合同班に分かれ、ボランティアセンターの自動車や徒歩で依頼者のもとに向かい、活動します。

大船渡市社会福祉協議会では、3月12日に災害ボランティアセンターを立ち上げ、復興へ向けた活動を行なってきました。

場所は、大船渡市総合福祉センター駐車場にあり、活動時間は、8時30分～17時まで、活動内容は、支援物資の仕訳け、避難所の運営サポート、引っ越し手伝い、被災家屋の清掃・片付け、各所の泥出し・ゴミ拾い、写真の修復・洗浄等としています。

大船渡市民宛には、「おおふなと社協だよりーおりやした(※おられましたか、の意味ー)」を発行し、困り事や相談事の問い合わせを受付しており、また、ブログを立ち上げ、活動内容を掲載しています。

ブログのアドレスは、<http://ameblo.jp/ooshakyo/>ですので、ぜひ、ご覧になってください。



《資材の提供・回収とドライバーの皆さん》

《四日目の朝》 6月22日



《今朝の住田BC公民館》



《今朝の吉元さんと蒲原さん》



《全労金2名と連合青森の皆さん》



《日教組の皆さん》

おはようございます。

今朝の住田BCの天気は晴れ、作業地である大船渡市も晴れ、予想最高気温は31℃です。
全労金班の3名は、心身ともに元気で、夜は熟睡、朝食も完食です。

いただいたコメントにもありましたが、明日から天気が崩れる予定ですので、晴天での活動をしっかり行なってきます。

3枚目の写真、右側に写っている連合青森の田村さん(女性)は、昨日までで活動予定が終了し、今日、青森県に戻ります。男女による作業の違いがない厳しい活動ですが、大きな存在感を随所に発揮していました。共に活動した仲間として、心からの感謝と挨拶を伝え、BCを出発しました。

今日はJSD(サービス流通連合)の仲間4名も合流して総勢45名になりますので、引き続き、安全第一、ゼロ災で頑張ってきます。

では、行ってきます。

《活動報告(4日目)》 6月22日



《毎日の作業で作業服に付けることが義務づけられているワッペン(毎日の作業終了後にボランティアセンターで回収します)》

お疲れさまです。

今日は全国的に暑かったですが、大船渡も晴天に恵まれ、最高気温32℃での作業となりました。

作業内容は、6月20日からお伺いしているお宅に向かい、床板の取り外しと釘抜き、押入の中板とその外枠の撤去、断熱材の取り壊し、棚の取り壊し等を行いました。

特に断熱材は、小さく砕いて袋に入れますが、30袋以上にもなりました。

日々、依頼内容が増えており、今日も全ての作業を終えることができませんでしたが、チームを3グループに分けて分担する等、効率的に対応することができたと思います。

明日で第8次派遣の活動も折り返しとなります。

みなさんからの励ましのコメントやメールがとても力になっています。ありがとうございます。

明日以降の天気が心配ですが、引き続きチーム一体となって活動していきます。(報告者・吉元)



《海岸近くの学校(がれきの回収場所)》



《毎日行っている五葉温泉の外観》

《五日目の朝》 6月23日

おはようございます。

折り返しとなる五日目の朝を迎えました。今朝の住田BCの天候は大雨、大船渡市も大雨のようです。

朝に岩手県沖でM6.7の地震が発生し、住田BCは震度3でしたが、連合ボランティア団は全員無事ですので、ご報告しておきます。

今日が中日であり、また、週間天気予報では今日と明日が雨でしたので、半々に分かれて、休養日(陸前高田市への被災地訪問)を取ることにしています。

私たちのチームは、明日が休養日となっており、今日は作業日です。ちなみに、作業が中止になるかどうかはボランティアセンターに確認してみないと分かりませんので、今日のスケジュールは未定です。

今後は天気もどうなるか分かりませんし、一日一日を大事にして、できる限りの活動をしていきたいと思っています。

《経過報告です》 6月23日

お疲れさまです。

今朝の地震と大雨の天候で、みなさんにはご心配をおかけしました。

雨も小降りになり、津波注意報も解除されたことから、昨日に引き続き、通常作業を行なっています。

午後もゼロ災で活動してきます。

《活動報告(5日目)》 6月23日



《ボランティアセンター近くの川沿いの道路。
今も多くのがれきが積まれています》



《ボランティアセンターの向かい側にある
大船渡市市民会館。今も避難されてる方が
いるようです。一階の窓ガラスには「津波
なんかには負けないぞ」という張り紙が貼
られています》



《ボランティアセンターに常駐している青森県弘前市の自衛隊の炊き出し用の車とその看板》



お疲れさまです。

お昼に報告したとおり、今日は生憎の雨で、朝には地震もありましたが、作業はいつもどおり実施しました。

ただ、いつもボランティアセンターに向かう道が山の中の細い道でしたので、今日は安全を優先し、遠回りしてセンターへ行きました。

作業内容は、引き続き同じお宅での内壁の取り壊しや、がれきの回収等を行いました。

今日は日教組の方々には休養日でしたので、セラミック連合の4名の方と合同で作業を行い、20日から継続してきた作業は無事に完了しました。

4日連続同じ場所での作業でしたし、家主の方からも御礼の言葉をいただき、メンバー同士で達成感を分かち合いました。

また、今日で連合青森の小泉さんが作業最終日となり、明日の朝に青森に戻ることになりました。若くして私たちのチームのムードメーカーとして、積極的に活動していただきました。本当にありがとうございました。

それから、今日の夜から新たに連合青森の傳法さんと大澤さんが私たちのチームに加わっていただきました。これから、よろしくお願ひします。

明日は休養日で被災地(陸前高田市他)を訪問する予定です。今後、連合ボランティアとしてBC(ベースキャンプ)を設置する場所でもありますので、体は休めつつも被災地の現状をしっかりと確認してきたいと思ひます。(報告者：蒲原)

《六日目の朝》 6月24日



《今朝の住田BCの様子》

おはようございます。今朝の住田BCの天候は雨、作業地である大船渡は雨のち曇りで、予想最高気温は26℃です。

昨日報告した通り、住田BCでは休養日を一日設定しています。参加者を二班(作業班と休養班)に分け、連合ボランティア団としての活動を休止することなく、参加者の休養もとることとしています。

全労金班は今日が休養日ですので、これから、大槌町、釜石市、陸前高田市、大船渡市、三陸町にバスで向かいます。

東日本大震災で被災した3月11日以降、復興に向けて一歩ずつ頑張っている様子を目と心に刻み込んできます。

では、行ってきます。

《活動報告(6日目)》 6月24日



《釜石市近くの大槌町の状況。こちらは震災後に火災が発生して、他の地域とは違った被災状況でした》



《大船渡市の被災状況。中心街では、より多くの瓦礫が山積していました》



《陸前高田市の被災状況。建物がほとんど残っておらず、言葉を失う光景でした》



《マスコミでも報道されている、陸前高田市で被災に負けずに残った希望の一本松》

お疲れさまです。今日は朝から大雨で、時折、小降りという状況でした。

私たち全労金チームは、今日は休養日でしたので、バスで被災地を回ってきました。行程は、釜石市、大船渡市、陸前高田市でした。

どの地域とも、マスコミ報道等で見ると実際に見るのとでは、大きく印象が異なり、被災地域を目の当たりにすると、言葉を失いました。

釜石市や大船渡市では、大量の瓦礫が山積しており、また、陸前高田市は建物がわずかに残っている状況でした。海から近い場所は海水で埋まり、陸前高田市役所の庁舎は3階まで津波が到達、市立病院や鉄道施設(駅、レール、駅舎等)も機能していませんでした。

改めて、地震と津波という自然現象の恐ろしさを痛感させられましたし、東日本大震災から100日以上経っていますが、被災地の復興にはまだまだ長い時間が必要であるということを今日の行動で胸に刻みました。

今日の体験を決して無駄にすることなく、残りの期間は短いですが、明日からのボランティア作業に活かしたいと思います。(報告者：吉元)

《七日目の朝》 6月25日

おはようございます。今朝の住田BCは曇り、作業地である大船渡市も曇り、予想最高気温は19℃です。

今日は住田BCにきて一番涼しい朝を向かえています。

三名とも体調は万全です。休養日明けの活動ですが、引き続き安全第一・ゼロ災をモットーに活動してきます。

では、行ってきます。

《活動報告(7日目)》 6月25日



《今朝のベースキャンプ。近くの川岸から撮影》



《ボランティアセンターに貼ってあったもの。
大船渡市の方の力強さを感じました》



《今日の作業の様子(側溝の泥上げをしている吉元さん)》



《今日の作業で集められた土嚢袋》

お疲れさまです。

今日は、土曜日ということもあり、ボランティアセンターには甲教祖(山梨)の方々や秋田の高校生の団体など、全国各地から264名のボランティアが集まりました。(平日は50〜70名程度でした)。

私たちのチームは、側溝の泥出し作業を行いました。日教組の3名の方も加わっていただき、9名で作業しました。

気温は比較的涼しかったものの、外での力仕事でしたので、汗をかきながらの作業となりました。

チームで掘り出す場所を分担して効率的に作業を進めましたが、終了30分前に側溝の泥から魚が出てきたため、作業を中断しました(社会福祉協議会の方が来て現状を確認し、消毒等を行うため)。明日は、また別の場所での作業となりそうです。

また、連合本部から、南雲事務局長や全労金特別中央執行委員で連合に出向している加来さんらが訪問され、私たちにも激励の言葉をいただきました。ありがとうございました。

さて、今回の活動では、被災地にも行き、それぞれのメンバーがいろいろな思いを胸に刻みました。第八次派遣メンバーの作業も残り1日となりますので、明日も自分たちにできることをやり遂げて、第九次派遣メンバーの方へしっかりバトンを渡したいと思いません。(報告者：蒲原)

《最終日の朝》 6月26日

おはようございます。

今朝の住田BCの天気は小雨、活動地である大船渡市は曇りのち雨、予想最高気温は21℃です。

昨夜の食事後、懇親会が開催され、怪我せず安全に作業することの確認、そして、参加者間の交流を深めました。



《左から平野さん、吉元さん、蒲原さん、三國さん》

住田BCでは、連合東京・平野さん、連合青森・三國さんが事務局として、連合ボランティア団の活動を引っ張っていただき、そしてサポートいただきました。平野さんは、福島県会津坂下町出身の39歳、きめ細かいサポートと温かい心遣いをしていただきました。三國さんは、連合青森の副事務局長です。持ち前のユーモアと気遣いで、常に周りの人を笑顔にさせるテクニクの持ち主です。

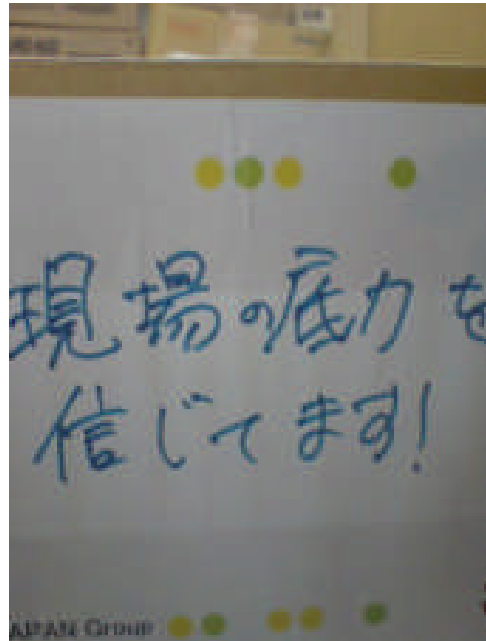
この間、大変お世話になったお二人に感謝します。いよいよ最終日、ゼロ災は当然ですが、連合ボランティア団の仲間との絆を強めながら、活動してきます。

では、行ってきます。

《最終日の報告》 6月26日



《大船渡市民体育館の入口》



《支援物資に書かれていたメッセージ》

お疲れさまです。今日の天候は、今朝の小雨からすぐに雨に変わり、肌寒い一日となりました。今日の活動地は、大船渡市民体育館で支援物資の搬入でした。

大船渡市民体育館は、被災直後から遺体安置所となっており、物資は各小・中学校体育館に搬入されていました。すでに学校は始まっており、生徒が体育館を使用出来るよう、今月から物資センターに変更となった場所です。

体育館内には、各小・中学校体育館からの物資が搬入されますが、国内だけではなく、世界各国からの物資が届けられています。

今日は、10tトラック2台、4tトラック2台、自衛隊トラック3台の物資が搬入され、連合北海道の皆さんと共に活動しました。

後ほど、第八次派遣者三名の感想を掲載します。



《大船渡市民体育館内の様子。多くの物資が集められています》

《第八次派遣報告》 6月26日

今、私たちは東北自動車道に乗り、東京に向かっていきます。今回参加した第八次メンバー3名の感想を掲載します。

《沖縄労組：吉元》

今回のボランティア活動は、私にとって、非常に貴重な経験をさせていただきました。

日頃は全く手にしたこともないバールなどの工具類を使用しての作業(壁紙外し、床板や断熱材外しなど)や、国内外からの支援物資搬入の作業を通して、改めて、ボランティア活動が身体や頭を使い、如何にして被災地、及び、現地の方々に寄り添い、更には現地の社協スタッフの方々のご尽力、ご協力でもって運営していることで、安心してボランティア活動に参加できたことを身を持って痛感しました。

また、作業休息日には、被災地の現状を見てきました。岩手県釜石市は、瓦礫撤去がお隣の大船渡市よりも沢山あり、時間がかかるとのことでした。大船渡市は、鮮魚会社の工場内の冷凍倉庫にあった魚が沢山あり、撤去するのに、時間がかかっていることを聞いて、地震及び津波の甚大な被害の恐ろしさを思い、改めて胸が詰まる思いをしました。

ところが陸前高田市は、市立病院の使用不能な状況であり、海側に面した地域は津浪の影響をもろに受けた現状を見ると、本当に言葉が出ず、涙が出てきました。今回は連合ボランティアの一員として参加する機会をいただきました。住田BCで出会った全国の連合加盟労組の皆さまと行動することができ、改めて労働組合が持っている「人と人の繋がりが」、「連帯」、「一人は万人のために、万人は一人のために」、という言葉が、本当に今の時期こそ必要なことではないかと思いました。

一緒に参加した全労金の末留書記次長、セントラル労組の蒲原書記長には、本当にお世話になりました。お二人がいたおかげで怪我もなく、今日までやり遂げることができたと思います。今後も、機会がありましたら、東日本大震災の救援ボランティア活動に参加したいと思います。

以上、報告を終わり、次の連合ボランティア活動へ参加する方々へバトンを繋げていきます。

《セントラル労組：蒲原》

今回の第八次から岩手県への派遣ということになり、多少の不安もありましたが、ベースキャンプのスタッフの方のご尽力のおかげで、安心して作業に取り組むことができました。ありがとうございました。

作業については、私一人の力は大きしたことありませんが、末留班長の下で、吉元さんを含め、チーム一体となって被災地の復興支援に貢献できましたし、貴重な経験となりました。吉元さん、お疲れ様でした。末留さん、班長の役目は大変だったと思いますが、本当にご苦労様でした。

それから、幾つかの被災地を廻ったことで、津波の恐ろしさと、本当の復興には何年・何十年もの時間がかかるということを思い知らされました。

ただ、被災地の方は決して下を向くことなく、私たちにも明るく接していただき、本当に強いと感じました。

被災地の方の前向きな姿と、日本全国からの継続的な支援があれば、必ず復興できると信じています。

今後も自分に何ができるのかを考え、今回の経験を単組の仲間にも伝えて、どんな形であれ、被災地への支援を継続していきます。また、活動期間中、多くの方から励ましの言葉をいただき、とてもありがたかったです。本当に感謝しています。最後に、第九次派遣の皆さん、ブログで住田BCの活動をどこまで伝えられたか分かりませんが、生活環境については、何も心配ないと思います。これから更に暑くなりますので、体調管理には十分気をつけていただき、引き続き連合の仲間と連帯して、住田BCでのボランティア活動頑張ってください！よろしくお願いします！！

《全労金：末留》

全労金として初めて住田BCを拠点に大船渡市での活動でした。ボランティア活動を通じて、被災された方々との繋がり、そして、連合第11次派遣の皆さんやBC事務局の皆さんとの繋がり、そして、blogを通じた全国の仲間との繋がり、を改めて感じました。

私たちが経験したこと全てを伝えきれたかどうかはありますが、このblogを通じて、「繋がり」「絆」を共有できれば幸いです。

大変ありがとうございました。

以 上